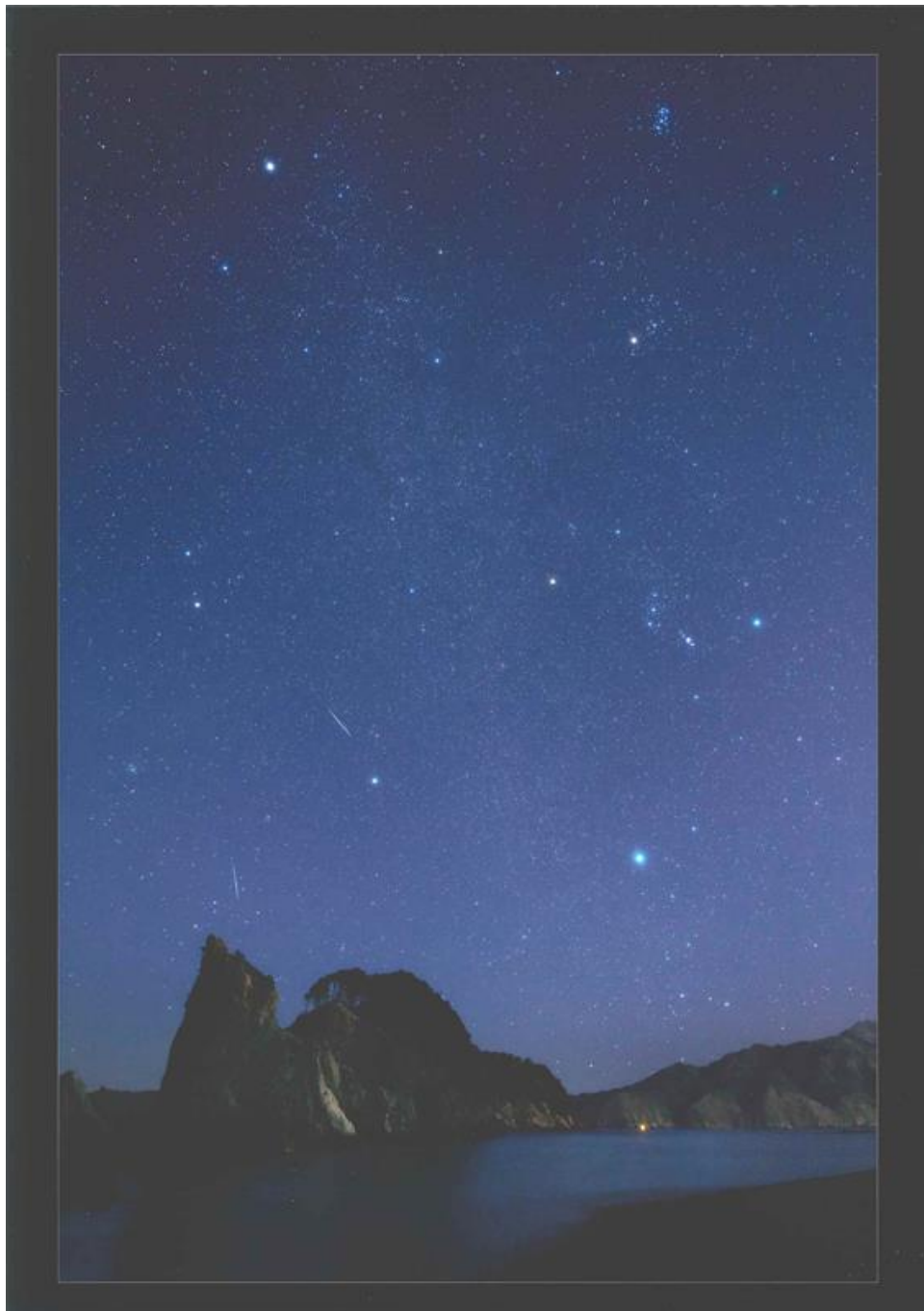


星景写真コンテスト入賞作品目録



一席

「ふたご座流星群と
ウィルタネン彗星」
木村 洋介さん
(宮城県)

岩手県三陸海岸の浄土ヶ浜での撮影で、月の沈む前の星空です。ふたご座の流星とすばるの右下の彗星が主題です。月明かりに照らされている海岸の岩肌、黒い松林と1個の人工燈火が画面を引き立てます。冬の天の川もシリウスとプロキオンの間からぎよしゃ座へと淡く続きます。会心の1枚でしょう。

※掲載した作品は、印刷時に作品本来の質が損なわれております。ご了承ください。
※入賞作品は、鳥取さじアストロパーク公式ホームページにも掲載しています。

第26回鳥取市さじアストロパーク星景写真コンテスト

- ☆主 催☆ 鳥取市さじアストロパーク
- ☆協 力☆ 写友会カプリシャス、鳥取県写真家連盟東部支部、鳥取天文協会
- ☆協 賛☆ (有)中央光学、テレスコープセンターアイベル、天文ハウスTOMITA、(株)中井脩、(株)ビクセン、三鷹光器(株)
- ☆後 援☆ AstroArts/月刊星ナビ、(合)さじ振興、(株)さじ式拾壺
- ☆応募結果☆ 100点(47名)
- ☆審 査☆ 委員長/佐治天文台台長・香西洋樹
委員/鳥取市さじアストロパーク所長、ほか

審査委員長 香西洋樹(佐治天文台長)

佐治天文台は、1994(平成6)年7月31日にオープンし、今年(2019年)で開設以来満25年を経過しました。遂に4分の1世紀が経過したのです。鳥取県は県の愛称を“星取県”と決め、国内に大々的にアピールし、星景写真の公募、幾つかのイベントに加えて、大学との提携など多くの事業を遂行してきました。今回も、アストロパークで当初から継続して来たこの星景写真コンテストを、前回までと同様「星のある風景」＝「星景写真」を全国的に募集しました。その結果、北海道から四国・九州に渡る全国各地の47人により100点の作品が寄せられました。昨年に比べ応募総数が幾分増加していて好ましい状況に転換される兆しを感じられます。しかし、一昨年来の多くの天災の余波が何時まで続くのか、また今年の暖冬も気がかりです。応募頂いた方々の年齢は、10歳代の方から70歳以上の高齢の方までに亘り、特に中年の方々の応募数が半数に達します。何かと多忙な中年の方々が寸暇を見つけて家族共々に親しむ夜空の星々。今後の活躍が期待されそうです。これは星空、言い換えると人と宇宙についての関心が広がり、そして深まったことを示しているのではないかと思います。今回、応募された作品を拝見するとき、作者自身の自然観、さらに人生観などを感じさせられ、そして地元に対する慈しみの思い。若年の人は新鮮な眼差しで驚きを、中年の方には勢いを感じ、高齢者は成熟した瞳で見つめ、人と宇宙の関わりを表現しました。また、撮影の場所についても、撮影のための遠征に加え自宅付近、さらに故郷の星空を改めて見上げる姿勢が見られることは大変素晴らしいことと感じます。評者は、以前から居住地の、言い換えると生活の拠点の星空を大切にしたいと語り続けてきました。すなわち、都会には都会の、また、田園地帯には豊富な自然の星空があります。つまり、星空は撮影地の環境を示す指標なのです。入選作品については個々に選評を書くことにしますが、全応募作品が作者自身で納得し、厳選された上での応募であることは言うまでもないこと、その事実は作品を審査する過程において如実に感じました。一方、作者の作品に対する強い愛着心から、不要とも思われる部分が残ったり、また星と風景のどちらが主役なのか判然とし難い作品もあり、これ等がかえって作品の印象を弱める結果を招いている作品もあり残念でした。デジタルカメラとパソコンによる画像処理、さらに高画質プリンターの普及により、天体を含むテーマがより身近になったことは素晴らしいことに違いありません。しかし、あくまでも自然が対象です。目で見て好感が持てる作品が何よりです。行き過ぎた処理には疑問が残ります。応募作品を拝見し、回を重ねるごとに完成度の高い作品が多くなってきたことを強く感じ、さらにこれまでの応募者に加えて、初応募の方や若い愛好者が増加したことも大きな喜びでした。写真が手軽に撮影でき身近になってきた一方で、天体を含む自然に対して関心が低下してきていると危惧する声も聞かれます。しかし、天文学上の新しい発見や業績が発表されると、世間は一気に沸騰します。星空と我々人間の関係は、永遠に変わることのない伴侶であります。何時までも皆様と共有していきたいものです。特に最近頻発する自然災害。これも地球誕生以来繰り返されてきた自然現象で、早い復興を心から願い、その被災地の上にも太古からの変わらぬ星空があることを心に留めて置くことも大切なのではないのでしょうか。最後に、このコンテストを催すにあたり、多くの方々にご協賛・ご後援をいただきました。主催者として、この場を借りて深く感謝を申し上げます。

二席「月 暈」

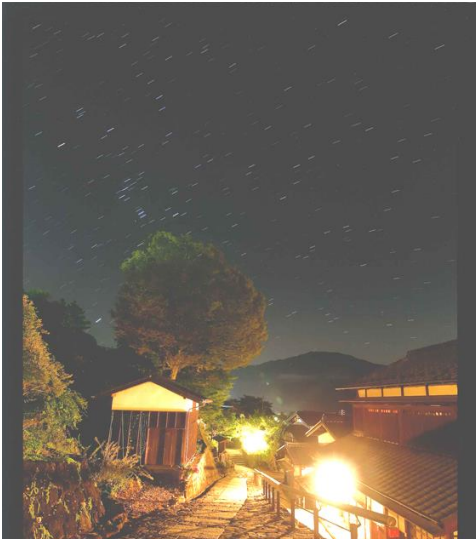
加川 清三郎さん(鳥取県)

鳥取県の名峰・大山の上空に掛かる月、其れを取り巻く暈(かさ)＝ハロー、月の上下にはハローの中に2個の幻月が見えます。上空の大気が不安定になっている証拠です。上のハローの右には横倒しのオリオン。地上に点在する人工の燈火。人と宇宙の繋がりをハローを通して見せてくれます。



三席 「宿場町とオリオン」

安田 幸弘さん(埼玉県)



木曾街道の宿場町・妻籠宿に掛かるオリオン。評者も、木曾観測所で観測していた際に何度も訪ねた場所。人工燈火に照らされた宿が道よりも低い場所で急坂を示し、街道の上空には南中前のオリオン。古い宿場とオリオンが時の流れを教えてください。島崎藤村が名作「夜明け前」を執筆中の窓に見えたのが画面中央の「恵那山」で中央高速が通ります。

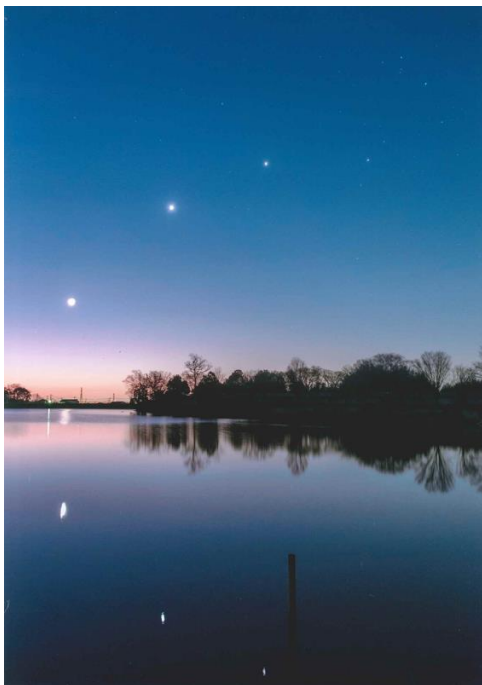
三席 「天の川を射抜き、月へ」

鈴木 克哉さん(神奈川県)

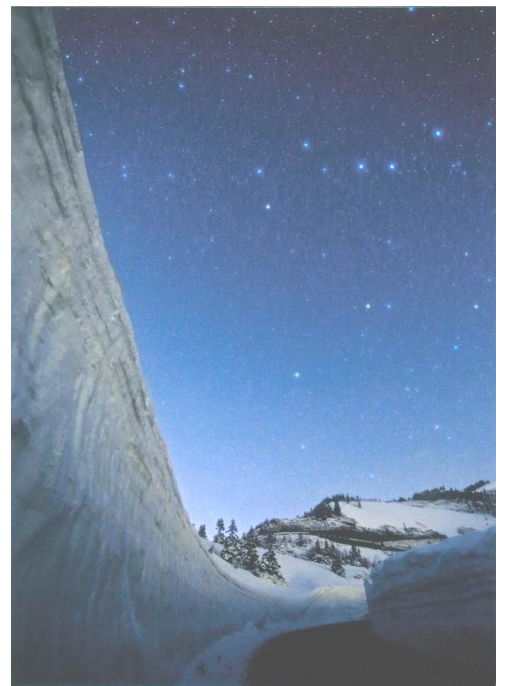


伊豆半島の先端下田市の爪木崎からの撮影です。登ったばかりの月に向かい、あたたかも月を突き刺すかのように流れた流星。弓の矢か槍の穂先を思わせます。右手には立ち登るさそり座、地球照で赤く染まった月面とその下で移動する船の燈火。明るい惑星が目を引きまます。

特別賞

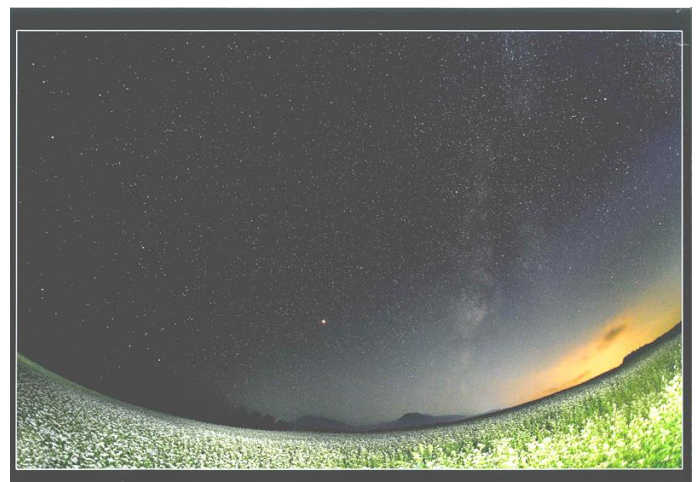


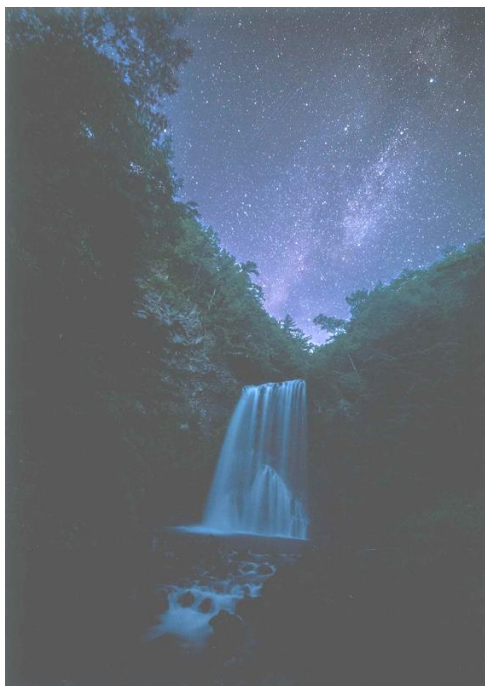
「土・月・金・木・アンタレス」
豊田 紀子さん(東京都)



「雪の回廊とおおぐま座」
竹本 英男さん(東京都)

「満天の星」
石村 國男さん(福岡県)





「ふたつの川が重なるときに夢は叶う？」
平尾 真介さん（愛知県）

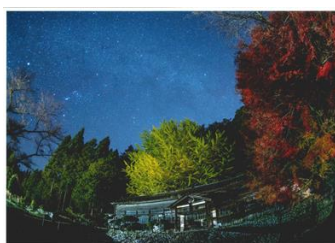


「春分の日19年ぶりに満月が昇る」
北村 壽規さん（東京都）

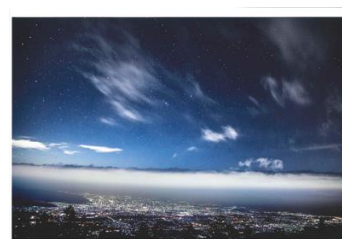
佳作



「大山をわたる天の川」
岡田 稔さん（島根県）



「魔校を彩る」
楠本 毅さん（香川県）



「雲隠れ」
竹端 榮さん（神奈川県）



「螢銀河」
福本 タダシさん（奈良県）



「communication」
森 康宏さん（愛知県）



「ロケット発射場に輝く」
横山 明日香さん（北海道）

星取県賞



「中秋の名月に照らされて」
山本 美佐子さん（鳥取県）



「大正ロマンの瞬きを」
八木谷 祐一さん（鳥取県）

鳥取市さじアストロパーク

〒689-1312 鳥取市佐治町高山 1071-1 TEL 0858-89-1011 FAX 0858-88-0103

<http://blog.zige.jp/saji-astro/> e-mail sj-astro@city.tottori.lg.jp